

▶ 論述型 (課題①:ストーリー創作 テーマ「ノーベル賞」)

「憧れのチエーターチーズ」

僕はノーベル賞が嫌いだ。未来のノーベル賞候補と注目を浴びる教授。僕はそいつに飼われている実験用マウスだ。家族や夥しい数の仲間を失う瞬間を目の当たりにする日々。得体の知れない液体を体に注入されて毛が全て抜け落ちたり、体の一部を失ったり。皆、もがき苦しんで死んでいった。なぜそんな残酷な人間を称賛するのか。僕達の恐怖や絶望を想像すらないのだろうか。僕自身も幼い頃、体に針を刺された。あれから十五年。今のところ僕の体はこれといった変化はない。

僕だけはなぜか、皆とは違うケージに入れられている。新しい仲間も右足に緑色の札を付けられ、隣のケージに入れられる。そして少し成長しては皆、連れ去られて行くのだ。

同じ光景、変わらない毎日だった。ふと目を覚ますと、透き通ったケージの蓋が開いている事に気がついた。諦めかけていた人生に希望の光が差し込んだ。外の世界を見たい。自由になりたい。小屋を巧みに利用して、自分でも驚くほど簡単に抜け出せた。僕はこんなに力が強かったのか。初めて見るその広い世界に高揚し、暗闇の部屋中を駆け巡った。僕は古びた柵の下で暮らす事にした。

一月月経つたある朝、なやらしさんが打ちひしがれて人吠えている。「周りは皆研究に成功し、ノーベル賞を受賞した者だっている」というのに私は何をしているんだ。もうこの研究に終止符を打とう。残り短い人生、諦めも大事だ。」

僕は落胆した。忘れかけていた怒りや悲しみが沸々と湧き出す。冗談じゃない。今までの家族や仲間の死は無駄になるのか。焦燥に駆られて辺りを見渡すと、次々とやってきた新しいマウスは居なくなり、いつの間にか僕一匹になっていった。ずらりと並んでいたケージは片づけられ、今まで見えなかった窓が現れていた。窓越しに広がる庭の、生い茂った芝生にも似たそれは、見覚えのあるあの緑色の札だった。マウス達はじいさんの手で、大切に埋められていたのだ。ああ、人間にも情はあったのか。目の前の光景を脳裏に焼き付けて真つすぐに前を向いた僕は、二歩一歩、自らじいさんの足元に近づいていった。目を丸くしたじいさんは僕を凝視した。

「お、お前！生きて居たのか。やはりあの時の実験は成功していたんだ。お前が消えて、全てを諦めようかと考えていたところだ。」

じいさんは僕の右足と同じ赤札のついた資料を取り出し、震える両手で僕をすくい上げた。

その手の中は想像よりもずっと温かかった。

寿命や不死身、能力の増加に関するじいさんの研究は人々や様々な動物に役立った。その功績が讃えられノーベル賞を受賞。他社のために人生を捧げたじいさんは今、庭の土の上に小さなチーズを並べ、手を合わせている。そんなじいさんの隣で食べる初めてのチーズの味は、僕の口には少し気高く感じた。

指定された文字数の中で、起承転結の構成が考えられており、物語としての完成度の高さがうかがわれます。また、主人公が実験動物であることも、意外性があり、読者の関心を惹きつける点であると思います。

▶ 論述型 (課題②:小論文)

「ガーディアンズ:オブ・ザ・ギャラクシー」

私が映像に興味を持ったきっかけとなった二〇一四年に制作されたアメリカのSF映画「Guardians of the Galaxy」を取り上げた。

映画のあらすじは、少年時代に宇宙海賊に誘拐され、地球から他の星に拉致された主人公が成長し、最後は宇宙社会を救うという物語である。私は十三歳の時初めてこの作品を見たが、始めから終わりまで夢中で見続けた。

この作品の特長を「表現技術」と「キャストイング」、そして「物語の主観」の三点から考えていきたい。

まずは、表現技術であるが、音楽の使い方が印象的だ。作中随所で、キャラクターの心情描写を既存の曲を効果的に利用している。音楽も台詞になり得るのだと実感すると同時に映像と音楽の組み合わせの大切さを知った。本作品の監督「James Gunn」はこの映画において音楽の部分に力を注いでいると感じた。映画全体を通して主人公のピーター・クイルが地球にいた時の時代設定に合わせた一九七〇年代から八〇年代の曲を使い、主人公のバックボーンとともに観客にもノスタルジーを思い起こさせている。この映画を初めてみたときは、父と一緒だったが、父は自分が若い頃を思い出して感慨に耽っていた。また八〇年代の曲等を使う映像表現は、流行にもなっているが映像と音楽を組み合わせることで美しさまで感じさせている。

また、キャストイングに関しては、俳優の演技力も印象に残っている。全ての出演者の演技力は素晴らしいと思うが、特に主人公のクリス・プラットのコミカルな演技は思わず吹き出すことが度々あったし、映画館もその瞬間は特に笑いに包まれていた。主人公は悲しい過去を背負っている設定なので、ストーリーは暗くなりがちになるが、彼のユーモアが映画全体を明るくしている。しかも彼のセリフはテンポがよく、アメリカ映画独特のストーリー展開は俳優の演技力も大きく貢献していると感じた。

そして、私が最も感動したのは、この作品の主題であった。主人公や彼を支えるのは、社会的、世間的に弱者と呼ばれる人たちである。作中では「負け犬」とまで表現されていた彼ら彼女らが力を合わせ最後は銀河を救うという、アメリカンヒーロー的でもあり、なおかつ市民革命的でもあるストーリー展開であった。私もこの映画を見るまでは、学校のクラスの中でも目立たず、他人は自分より優れているという先入観と劣等感があり、その反面、自分の考えを他者に知ってもらいたいという意思を自覚することもあった。そのような自分の葛藤を重ね合わせながら、この映画を見ることができた。

この映画に影響されると同時に、私も自分で、映像や音楽を使い、独自の世界を多くの人々に伝えていきたい。

「表現技術」、「キャストイング」、「物語の主観」という複数の観点から、作品の素晴らしさを論じています。読者に作品の素晴らしさについて納得させる方法として有効に働いていると思います。

昨年度参考例題

▶ 企画提案型 (身体表現力(朗読))

小川未明著『青い時計台』
横光利一著『火』

課題

映像学科

● 対象入試区分

総合型選抜 Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期／社会人入試・帰国生入試

● 課題タイプ

論述型(課題①:ストーリー創作・課題②:小論文)、企画提案型(身体表現力(朗読))

● 出題意図

論述型

課題①(ストーリー創作):ストーリーの構成力、展開力、文章表現力を測るとともに、映像表現としてふさわしい構造になっているかを評価します。

課題②(小論文):映像は視覚的な情報なので、それを文章としての確に表現し、筆者の論点などが論理的に説明できているかを評価します。

企画提案型(身体表現力(朗読)):文章の一部を読み、描かれた人物、情景、心情などの内容を具体的にイメージしながら、その文章の内容にふさわしい表現の工夫を凝らした朗読ができているかを評価します。

● 評価のポイント

論述型

課題①(ストーリー創作):例えば皆さんがよく知っている「桃太郎」を例にあげると、「昔、二人暮らしの老夫婦がいる。ある日、おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯にいくと、おばあさんは川で桃を拾ってくる。家に持ち帰ったら桃からは男の子が出てきて、二人は桃太郎と名付けて大切に育てる。やがて桃太郎は立派に成長して、鬼ヶ島へ鬼退治に行く。その道中、出会った犬、猿、キジに持っていたきび団子をあげると家来になって一緒に鬼退治に行き、見事勝利し、鬼が悪行を重ねて集めた宝物を荷車で引き村へと持ち帰る」のように、導入部で「誰が主人公で何をしようとしているのか」、展開部で「どんなことがあったのか」、結論部で「最終的にはどうなるのか」がきちんと書かれていることが大切です。

課題②(小論文):取り上げた映像作品についてよく調べ、周辺情報についての知識を持っていることがベターです。

企画提案型(身体表現力(朗読)):発声法(エロキューション)の技能ではなく、文章に描かれた人物、情景、心情などの内容を理解して、朗読してもらいます。文章の読解力と朗読を通して、演技者としての身体表現力を問います。

課題内容

総合型選抜 Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期／社会人入試・帰国生入試

希望する領域の課題を選択してください。

〈身体表現領域以外〉

以下の課題①②、からいずれか1つを選択してください。

課題①(ストーリー創作):「卒業式」をテーマにストーリーを考えて、市販の400字詰原稿用紙(2~3枚)に縦書きであらすじを書いてください。色鉛筆などを使用せず、文章のみで作成してください。

課題②(小論文):あなたが映像学科を目指そうと思うきっかけとなった映像作品か演劇を1本選び、どうしてその作品が心に残ったのか、あなたがその作品について独自に考えたこと、あなたなりの解釈が明確にわかるように市販の400字詰原稿用紙(2~3枚)に縦書きで解説してください。

〈身体表現領域〉

企画提案型(身体表現力(朗読)):次に掲げる作品を間・抑揚などを内容から考え、試験当日に15分程度で朗読してもらいます。
太宰治著『ア・秋』、芥川龍之介著『奇怪な再会』
※面接時には、暗唱ではなく、手渡された本文を朗読してもらいます。